

戦後における公衆衛生の改善と医薬品産業

山浦 清透

キーワード： 公衆衛生, 医薬品産業, 興和, 紡績資本, 陸軍衛生材料廠, 戦後復興

1. 研究の背景と目的

感染症の克服と、公衆衛生の維持・増進は、経済と社会の持続的発展にとって必要不可欠である。低所得国においては、死者の30%以上が15歳以下の子供であり、特に感染症によって死亡している。日本においても、戦前から戦後にかけて、感染症の克服と公衆衛生の維持・増進が、大きな社会的課題であった。これらの改善に重要な役割を果たしたのが、戦後の医薬品業界の急速な復興であった。先行研究では、医薬品産業が逸早く復興を果たすことができた要因について、金融面や原料確保などで政府から優遇措置を受けたことと、海外から導入された抗生物質の生産を契機として他産業からも多くの企業が医薬品業界に参入してきたことが指摘されている。しかしこれらの要因は外的なものであり、外的要因に依拠することを可能にした企業の内的要因からの分析が欠けている。そこで本研究では、企業の内的要因の観点から、戦後の医薬品産業の復興過程を分析することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、医薬品産業の復興と企業の内的な成長要因の関係を明らかにするために、興和株式会社の医薬品事業の成長要因を分析する。興和は敗戦直後に医薬品産業に参入し、中堅企業のなかでも上位に位置するまで成長を遂げた。戦前は綿工業を営んでいた興和の、医薬品事業における成長過程には、医薬品産業の企業の成長要因が見られる。本研究では、敗戦後の1945年から1960年までを分析期間とし、『興和百年史』及び『興和百年史史料』の記述を踏まえ、営業報告書等の客観的文献を使用してその要因の分析を行った。

3. 興和医薬品事業の成長過程

興和は敗戦直後、陸軍衛生材料廠の技術者を獲得することで医薬品産業に参入した。始めに日本薬局方医薬品の製造に取り組んだが、医薬品企業としての知名度がなかったため、売上は思わしくなかった。そこで、陸軍衛生材料廠の研究テーマを製品化することで、滋養強壮剤「スメン注コーワ」を開発し、医薬品業界での足掛かりをつかんだ。これを契機として、陸軍衛生材料廠や東京大学医学部薬学教授の研究テーマを製品化していくことで、興和はヒット商品を生み出した。

医薬品事業が収益を上げるようになるまで、興和を支えたのは興和紡績株式会社であった。興和の主力事業であった繊維商業部門は、敗戦直後、物資の欠乏により事業がままならない状態であった。しかし、興和紡績が製造した綿製品を仕入れることで、配給業務および綿製品輸出において収益を上げることが可能になった。ここで得られた収益が投資されることによって、興和医薬品事業は成長を遂げることができた。

4. 結論

興和が医薬品産業において成長を遂げることを可能にした内的要因は以下の二点である。一点目は、軍内部に蓄積された製薬技術の導入機会である。軍の技術者を獲得し、戦前・戦時中から軍に蓄積されていた製薬技術を、戦後に興和が製品化することで、興和医薬品事業は成長することができた。二点目は、紡績資本の活用である。興和紡績は戦前から蓄積していた自己資本によって綿製品の生産を再開し、興和はそれを調達し販売することで収益を上げた。その収益が医薬品事業の資金となり、それによって興和医薬品事業は人材獲得や研究開発を行うことができた。これら二つの要因は、戦前から戦後への技術の連続性を有する機会と、グループ内における他産業からの資本移転を意味しており、戦後の医薬品業界全体における内的な復興要因であると指摘できる。従来指摘されていた外的要因に加え、この二つの内的要因が組み合わさったことで、興和を含めた医薬品産業全体は急成長を遂げ、敗戦後の国民の公衆衛生の改善に寄与した。